

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 4月 5日

事業所名 放課後等デイサービスセンター ころね

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		ワンフロアだがパーティションや家具、畳等で境界を作り活動を分けている。	利用される方の特性に合わせて、都度環境づくりを行う。
	2	職員の配置数は適切である	○		安全を第一に活動内容に合わせて職員を増員している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		玄関やトイレ等バリアフリーである。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			チーム支援としてPDCAサイクルとなるようカンファレンスを行い役割分担を決め支援に就く。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		信頼関係を築き、忌憚ない意見を頂けるように努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		都度テーマを決めて研修を行っている。	今後も様々なケースを想定し内部・外部の研修を年間計画に盛り込み実施する。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		支援者や学校、関係機関と情報を共有し計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		契約時や、モニタリング時にアセスメントシートを作成している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用者の強みや特性を活かせるように立案。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動内容の振り返りを行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		時間内に収まるように課題毎に支援内容を決めている。	季節感などを大切に放課後・休日の過ごしを利用者や保護者の要望を汲み入れながら計画し進めたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	○		学年別や活動別など色々な集団を形成。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			開始前の打ち合わせは有るが、利用者の状況が変わる事が有りその場で臨機応変に対応している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りを行い、意見交換している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用者の記録をつけている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング後、支援計画の更新を行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		基本活動を意識した支援を行っている。	畑活動、手指訓練、ミュージックケア等今後も継続して多種多様な組み合わせの支援をしたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		支援者で情報共有を行い会議に参画。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		引継ぎ時に情報を共有。保護者様の想い等も出来る範囲で共有。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		看護師不在の為、医療ケアが必要な利用者は受け入れしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			出来る範囲で就学前の施設の申し送り書を共有出来るように求めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		福祉就労先へ情報提供している。	今年初めての卒業者が一人巣立ちましたが、来年度は複数人いるのでしっかりと繋いで行きたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			必要に応じて連携を図って行きたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナウィルスの影響が収束したら、近隣の児童館に声掛けして行きたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		協議会にて情報の共有を行っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳を用いて情報を共有し共通理解を持っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		職員一人一人の技量を高め、ペアレント・トレーニング支援が出来るように検討していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明。変更時も個別に文書や訪問して説明。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて職員が対応。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		希望される保護者もおられる。コロナウィルスの影響も有るがどのような形の開催が良いか検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		迅速且つ適切に事実を把握し、正しく対応すべく心掛けています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年6回発行し配布している。	今後も内容充実させ、わかりやすい会報を発信したい。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の大切さを全支援員に説明している。	保護者様から個人情報についてご指摘を過去受けているので、細心の注意を払って注意を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個別で時間を設けたり、場所を移したり配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			畑活動を地域の方やボランティアの方で行っている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		全てのマニュアルを策定し、職員には周知しているが今後保護者にも周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		法令に基づき訓練を行っている。	通常土曜日に避難訓練を実施しているが、平日でも出来ないか検討する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部講師を招き、虐待防止等の研修会を開催している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			必要に応じて個別支援計画に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現状、医師からでは無いが保護者から細かく指示を受け、食事の時間をずらしたり、食事後の清掃を徹底している。今後は必要に応じて医師の指示書に基づいた対応を検討する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		支援者間で事例の共有を行い、再発防止策を出し合うようにしている。	